

専門医の地域医療への従事及び職場復帰等について

1 現状と課題

- ・ 2018（平成 30）年度に、現在の新専門医制度が本格的にスタートしており、令和 3 年秋頃には「日本専門医機構認定専門医」が誕生する。
- ・ 日本専門医機構は、原則 5 年ごとの更新制度をもって専門医を再評価し、専門医の質の担保を図ることで、国民に信頼される専門医の育成を目指している。
- ・ 一方で、医学部卒業生の 9 割以上が専門医を目指しているといわれる現状にあつて、専攻医がどの地域で研修に従事するのか（地域間・診療科間の偏在）が、地域の医療提供体制に影響を及ぼすことが懸念されている。
- ・ このことについて、日本専門医機構の寺本理事長は、専門医の更新に際して、『多様な地域での診療従事経験』にインセンティブを付与し、専門医資格を得た後も積極的に地域医療に従事することを求める考えを示している。

2 議論の方向性（当面の課題）

- ・ 上記の「多様な地域での診療」に従事することに関して、日本専門医機構（各領域学会）では、「地域医療に従事する際の役職や身分・待遇が保証されるのか」、「従来の職場への復帰が保証されるのか」などの議論がある。
- ・ このことについて、現行制度への理解を深めつつ、都道府県側ができることは何か、意見やアイデアを集めるとともに、国や日本専門医機構に提案すべきことについて、整理する。

3 都道府県へのアンケート

- ・ 議論に先立って、今回のワーキングチームへの参加を呼びかけるにあたり、アンケートを実施した。
- ・ これらの回答をベースとしながら、幹事会において具体的な議論を行う。

内容	回答（例）
新専門医制度への期待	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専門医の質の向上と地域医療の確保の両立 ■ 専門研修の中で積極的に地域医療に従事していただくこと など
新専門医制度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の連携施設における指導医の不足（専攻医の配置不可） ■ 症例数等が多い基幹施設に集中する傾向が高まること など
当面の課題について	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域勤務の間は所属病院の医師の身分で派遣されるよう所属病院と協議（その間の派遣費用の助成措置含む） ■ 勤務する医療機関のあっせんや待遇等の調整を都道府県が行う など